

CENTER

for Promotion of Higher Education

東洋大学
高等教育推進センターニュース

第3号

特集 授業内容・方法のさらなる改善に向けた取り組み

- 1 アクティブラーニングがひらく扉（松原 聡）
- 2-3 授業評価アンケート活用の実態とその事例
- 4 2018年度東洋大学優秀教育活動賞
- 5 第5回東洋授業への声コンクール「後輩に聞かせたい、私が授業で得たこと！」
- 6-7 高等教育推進センター各部会の活動紹介
- 8 高等教育推進センター活動報告（2019年4月～2020年3月）

アクティブラーニングがひらく扉

高等教育推進センター センター長 松原 聡（経済学部総合政策学科 教授）

「アクティブラーニング」は、現代の教育の大きな課題となっている。しかしこれは、そう簡単に実現できるものではない。立命館慶祥中学校・高等学校（江別市）では、アクティブラーニングは、「小手先の教育ではできない」（久野信之校長）として、巨費を投じて専用の教室棟まで建設している。

とりわけ、100人以上の大人数の講義が多い大学において、アクティブラーニングを実現することは容易ではない。そこで期待されるのが、ICTやAIの講義への活用である。「レスポン」を活用すれば、教室中の学生の意見を瞬時に集計し、学生と共有することができる。さらにその学生の意見を、AIによってクラスタリングする機能も開発されつつある。これには、そのクラスターごとに学生の代表的な意見を抽出して表示する機能もついている。この機能を試験的に利用した私の講義の参観者から、「教授が、あたかも教室全体と対話をしているようだ」との感想をいただいた。

2021年度の大学入学共通テストで、「記述式問題」の出題取りやめのニュースは記憶に新しい。その導入が拙速であったことは否めない。しかし、文部科学省に、高校までに培ったアクティブラーニングの能力はマークシート式の大学入試では測れない、という強い思いがあったことは忘れてはならない。私達も、ディプロマ・ポリシーで学生を世に送り出す姿を示してい

るが、その教育にふさわしい学生を、マークシート式の入試で選べるのが問われることになる。

写真は、立命館慶祥中学校・高等学校のアクティブラーニング棟への渡り廊下である。ここを通過して、今までとは異なる教育の世界へ向かうことを生徒に自覚するために工夫したという。この渡り廊下の先にある扉が、日本の様々な教育の場面で開かれることを期待している。



2019年12月 筆者撮影

授業評価アンケート活用の実態とその事例

本学における授業評価アンケートは、2013年度より全学共通設問と学部独自設問を設定し、実施しています。導入から6年、教員各位の多大なご協力のもと、学生と教員のコミュニケーションツールの一つとして定着してきました。一方で、結果を受けてどのように活用すれば良いかという問合せも少なからずお寄せいただいているのが現状です。

そこで、授業評価アンケートの開発、分析及び活用に関する活動に取り組んでいる高等教育推進センター教育方法改善部会の企画により、授業評価アンケートの活用の有無を把握し、活用について優れた実践事例を集め、共有することを目的に「授業評価アンケート活用例把握のためのアンケート」を実施しました。アンケートに回答くださいました先生方におかれましては、ご協力いただきありがとうございました。結果の概要をご報告します。

授業評価アンケート活用例把握のためのアンケート

対 象	専任教員 767名
期 間	2019年11月15日(金)～2020年1月6日(月)
設 問	Q1. あなたは、授業評価アンケートを授業改善に活用していますか。 Q2. Q1.で「はい」と回答された方に質問です。どのような活用をされていますか。具体的な活用例をご教示ください。 Q3. あなたは、授業評価アンケートを授業改善以外に活用されていますか。 Q4. Q3.で「はい」と回答された方に質問です。どのような活用をされていますか。具体的な活用例をご教示ください。 Q5. その他、授業評価アンケートについてご意見があればお寄せください。
回答者	281名(回答率37%)

結果1 9割の教員が授業評価アンケートの結果を授業改善のために活用している



結果2 授業評価アンケートの結果を受けて、教材、板書、難易度、進度の順に改善が図られている

授業評価アンケートを授業改善に活用している方に、具体的な活用例を自由記述で尋ねました(Q2)。その内容を本学が実施する授業評価アンケート項目のカテゴリ別に整理しました(表1)。その結果、教材の修正、変更、追加等による授業改善がもっとも多いことがわかりました(①)。次いで、黒板・ホワイトボードやスクリーンの文字・図表が読みやすくなるような配慮や(②、⑤)、授業の難易度や進み方のペースの調整(③、④)が挙げられました。下記に、寄せられた具体的な活用例の一部をご紹介します。

～事例～

授業のわかりやすさ(A0)

- ・授業がわかりにくいと評価されたときは、「学生が何を学べばよいのか」をより明確に学生に伝えるように工夫している。

教材(A2)・難易度(D1)

- ・授業の難易度に対する学生からの回答にとくに注目している。「難しい」と感じる学生が多い場合には利用教材をより分かりやすいものに入れ替えたり、視覚資料を増やしたり、補助教材を作成したりしている。また「簡単」と感じる学生がいる場合には、発展的な内容を持つ教材も組み込むようにしている。

学習環境づくり(B2)

- ・私語が多いとの指摘には、「ワイヤレスマイクを持って教室後部に行き、無線によるスライドめくり機能を活用し授業をおこなう」などで対応している。

課題・小テスト・試験(Z2)

- ・理解度が予想よりも低い水準にあるので、講義内で実施している小テストの実施方法と内容を見直した。それまでよりも回数を増やし、かつ毎回の講義のサマリー的问题に徹することにしました。重要な点を繰り返し説明するよりも効果がありました。
- ・学部独自設問で尋ねている事後学習の時間が短かったので、翌年度は事後学習としてコメント送付を評価要件としました。

授業手法(Z3)

- ・新しい知識を学んでいないという結果に対しては、テキストの内容を議論させたり、コメントを英作文で描かせたり、扱っているテーマについて考える時間を増やしたりしている。また、英語の教え方について、新しい方法があれば学びたいと思い、大学で開かれるFD研修会にこれまで2度参加した。

表1 Q2の回答結果

改善した項目	件数
A 授業のわかりやすさ関連	
A0 授業のわかりやすさ全般	4件
A1 説明方法	15件
A2 教材	39件
A3 板書	30件
A4 スクリーンに投影する文字・図表	18件
A5 声の大きさ・スピード	13件
B 授業運営関連	
B0 授業運営全般	6件
B1 シラバス・授業計画	13件
B2 学習環境づくり	12件
B3 授業時間の厳守	
D 難易度・進度関連	
D1 難易度	23件
D2 進み方のペース	26件
Z その他	
Z1 授業内容全般	16件
Z2 課題・小テスト・試験	15件
Z3 授業手法	8件
Z4 評価方法	1件

結果3 授業評価アンケートの結果を受けて、授業改善を「どのような基準で」取り組んでいるか

結果2では、「何を」改善しているのかを確認しました。次に、「どのような基準で」授業改善に取り組んでいるのかに着目したところ、大きく4つに分類することができました。

分類① 項目間の数値の高低を確認して

- ・次年度の授業内容・授業の進め方を考える際に、相対的に評価が最も高かった点と低かった点に絞って、それぞれ継続、改善するように心がけています。

分類② 経年で結果を比較して

- ・過去数年間にわたって1年生の語学科目を担当しているため、学生の要求レベルの推移を定点観測するのに役立っています。本学の偏差値が上がっているということがよく言われますが、それにとまって若干の変化は感じています。場合によっては使用教材の変更も検討します。

分類③ 教員自身で設けた基準と比較して

- ・学生の評価と自分の想定がかけ離れる結果になるようなとき、その項目を注視している。
- ・評価にパターンがあるか見て、多数の学生から不満があれば、私のTeaching Philosophyに合致していることを確認したうえで、授業方法を変えることがあります。

分類④ 同一科目の担当教員間で共有して

- ・例えば、2年次演習では、担当教員のグループで授業評価アンケートの結果に対して、次年度の改善等を討議し、実践している。
- ・学生から出された指摘事項（例えば教員間の指導の差異や教室ごとの進度の偏り）について、担当教員間で状況を確認し合い、毎回の授業の前と後に、指導内容の確認を行うようにしています。
- ・コース間で評価に差があれば、課題・試験結果を見比べて授業改善のヒントにしています。

【参考】

本学における授業評価アンケートの分析結果票は、教員自身のふりかえりを目的としています。そのため、教員間の比較に用いることはしていませんが、組織的な活用として全学的な傾向、学部別の傾向を、ホームページで公表しています。



結果4 1割強の教員が授業評価アンケートの結果をひろく活用している

授業評価アンケートを授業改善以外に活用しているかを尋ねたところ、「授業改善以外」の定義は回答者によって異なりましたが、先生方の13%が授業評価アンケートの結果をひろく活用していらっしゃいました。



～事例～

- ・次年度の学生の初回授業で、難しい課題への取り組みの努力を促し、大学生としての達成感を期待できるよう、授業評価アンケートで寄せられた学生のコメントを紹介している。
- ・3年次のゼミ配属の方法などにフィードバックしている。
- ・スクリーンに投影された文字や図表が読みづらいという指摘に関しては、学会やシンポジウムでの発表資料作成の際に活用している。
- ・結果票の分析方法が興味深く、勉強になりました。
- ・講演会など、全体運営の参考にしている。

その他～寄せられたTEACHING TIPS～

- ・学生にとって、（例えば私語の注意をしてほしい等）授業を終えてから聞かれても（改善されずに終わる）・・・というところがあるため、そういう内容の要望は無記名の授業評価アンケートというよりも、毎回のリフレクションでできるだけ拾えるように配慮している。
- ・授業評価アンケートへの回答をお願いする際、学生には自由記述の項目にできる限り具体的に書いてもらうようお願いをし、その内容をもとに授業内容の見直し等を行っています。
- ・シラバス等にあらかじめこちらの授業方針を記載するなど、基本的に授業運営について最初に説明するようにしている。

今後の展望

授業評価アンケートの具体的な活用例に加えて、授業評価アンケートに関する疑問や実施体制に関するご提案等、想定を上回る件数の声をお寄せいただき、アンケートにご回答くださいました皆様に心よりお礼を申し上げます。いただいたご提案・ご意見を受け止め、2021年度の新カリキュラムのスタートに合わせて、授業評価アンケートの見直しを進めております。

現行の授業評価アンケートの趣旨・目的や分析方法等に関しては、ToyoNet-ACEにてご確認いただけますので、ご参照ください。



2018年度東洋大学優秀教育活動賞

東洋大学優秀教育活動賞は、2017年度に新設された制度です。本学で実施されている授業や教育プログラムの中でも特に優れたものを表彰し讃えらるとともに、FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動として、その優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。2018年度の教育活動に対して、6組12名の先生方が受賞されました。このような取り組みを通じて、質の高い授業が広く知られるとともに、教育活動のいっそうの発展が期待されます。

東洋大学優秀教育活動賞特設ページはこちら



経済数学IA—“反転授業”による授業方法改革—

経済学部 経済学科 佐藤 崇 講師

入念な授業デザインのもと、反転授業で準備を行い、講義時間はほぼ学生同士の学び合いという斬新な教育方法を通じて、学生の主体的な学びを実現し、数学が苦手な学生に対しても顕著な教育効果をあげました。



「スポーツビジネス論」 「スポーツインターンシップ」

—企業法学科スポーツビジネス法コースにおける学生の主体的学びの取り組みについて—

法学部 企業法学科 谷塚 哲 助教

スポーツビジネスを支える業界に焦点を当て、時事情報の提供や自身での調査を促す座学科目に加え、業界団体へ96名もの学生をインターンシップに送り出し、公正なスポーツの運営というスポーツビジネスの役割と学生自らのキャリアパスに気づきを与え、スポーツ界への人材輩出という教育目標達成への効果をあげました。



基礎化学演習

生命科学部 応用生物科学科 李 沁潼 助教

学科の重要な基礎科目である化学について、毎週身近な例を題材としたトピックを挙げるなど、苦手意識の強い学生が興味を持つよう授業を設計することで、学科の教育目標である人材育成の基盤部分を十分に支えました。



English Presentation II とSGUルーム

総合情報学部 総合情報学科 内丸 公平 助教

事前課題として毎週100words程度のスクリプトを作成し、授業冒頭にミニプレゼン、そして授業中に発表を行うという経験を通じて自身が出来なかったことを認識することで、主体的な学びを高める授業をおこないました。さらに、課外においても英語学習室SGUルームへ学生を招き、個別の添削を行ったほか英米圏のネイティブと会話をする機会を提供するなど、学生の留学意欲を高め、留学者実績を増やすなど、学部独自のSGU推進活動に多大な貢献をしました。



「基礎化学」における授業の効率化と文系出身学生のための授業改善に関する取り組み

食環境科学部 健康栄養学科 藤澤 誠 准教授

学力差が大きい初年次教育において、授業運用で効率化を図ることで、演習などのきめ細かな指導を実現すると共に、(高校の復習ともなる)数学コラムの掲載や自己学習問題の配布、Active-LMSで毎週朝8時に配信した課題を提出させるなど、幅広い授業外学習を促し、学生に高い教育的効果を与えました。



正課授業「English for Tourism Industry II」と連動した「ランチタイムセッション」

国際観光学部 国際観光学科 グライアム・ロブソン 教授
ターナー・マシュー 講師 中井 文子 准教授
ハーディ・ダレル 講師 パートレリ・キャロライン 講師
ロバート・ハミルトン 講師 渡邊 勝仁 講師

TOEICスコアの向上を目指し、正課の科目の他にランチタイムセッションを設け、語学向上意欲の高い学生の学習時間を更に伸ばした取組。TGLポイントなどを組み合わせることで継続的な参加を促し、受講前と受講後のTOEICのスコア平均があがるなど、グローバル教育の推進という学部の教育目標の実現に大きく貢献しました。



第5回東洋授業への声コンクール「後輩に聞かせたい、私が授業で得たこと！」

学生FDチームは、東洋大生がより主体的に学び、行動し、東洋大生であることに誇りを持てる大学を目指して、高等教育推進センターの一組織として、学生の大学生活の中心である授業を、学生、教員、職員の三位一体で改善、向上させようとする取り組みを進めています。その一環として2013年度より東洋授業への声コンクールを開催してきました。

このコンクールは、学生、教職員すべての人たちにとって大学での授業がよりよいものになるよう、広く授業への声を募集し、学内外に広く伝え、授業向上へ活かすことを目的としています。第5回のテーマは、学生が授業を受けて感じた様々な想いを集められるよう、「後輩に聞かせたい、私が授業で得たこと！」としました。

厳正なる選考の結果、今年度の入賞作品が決定しました。入

賞者への表彰式及び座談会は、竹村牧男学長、松原聡センター長、長谷川勝久部会長（教育方法改善部会）の同席のもと開催しました。



入賞作品介绍

紙面の都合により入賞作品の冒頭部分を掲載しております。
つづきはホームページよりご覧ください。



最優秀賞「当たり前を疑うということ」

奥西 極（文学部第2部 東洋思想文化学科 3年）

インド仏教史Aの講義は、釈尊の誕生から入滅、初期仏教の成立、部派分裂までを歴史に沿って学んでいくという内容であるが、決して、単純に教科書を読み進めていくというようなものではない。岩井先生は、事あるごとに立ち止まり、その考察が本当に正しいかどうか疑いの目を向ける。一見、何の矛盾もないような教科書の記述や、偉大な研究者による学説に対しても、厳しく疑いの目を向け、適切に批判する。大学の学問は、正解を覚えるのではなく、正解の無い問題と向き合う事であるということは、…（続きはHPへ）

優秀賞「何気ない買い物での驚きと発見」

田中 秀憲（経営学部第2部 経営学科 1年）

特に用事もないのに、ふらっとコンビニに入って雑誌を立ち読み。喉乾いたからおにぎりに合うという無糖の紅茶を購入、もちろん人気No. 1のツナマヨおにぎりと共に。レジで並んでいると、美味しそうな揚げたてのチキンがこちらを見つめて訴えて来ます。そんなに見られたら買うしかないだろうお、とチキンも購入。はい、私がダメ人間というわけではなく、実は巧妙に考えられた企業の戦略のせいなのです。／私は競争戦略論という講義を受けました。この講義では『需要の価格弾力性』『浸透価格戦略』などの単語が出てきますが、なにを言っているのかよくわかりませんね。しかし先生は…（続きはHPへ）

佳作「もう一つの世界」

原 ゆめか（理工学部 生体医工学科 2年）

私は「バイオフィジックス」の授業で量子力学を学び、もう一つの世界があることを学びました。私たちは日常に当たり前のよう存在し、生活を送っています。ですが、私たちの体は粒の集まりです。実は電子のような目に見えないほどの大きさになると皆さんが知ってる物理の法則が成り立たなくなってきました。とても不思議です。例えば…（続きはHPへ）

佳作「知識を蓄えるきっかけ」

A（生命科学部 生命科学科 3年）

皆さんは自分達の性や、自分以外の性に対する知識をどれくらいもっているだろうか？／私はよく、とあるSNSを使用しているのだが、昨今とてもびっくりするような性に関する情報が当たり前のよう認知されていると言う現状をよく目にする。／その代表的な例としては【生理】があげられる。小中学では、…（続きはHPへ）

学生FDチーム特別賞

「深い学びにつながる授業」

早川 奈菜（ライフデザイン学部 生活支援学科

子ども支援学専攻 2年）

私は「子どもの食と栄養」の講義と実習を通して、子どもに適切な食事を与える重要性和食に関する現代の問題について学ぶことができた。／講義では、…（続きはHPへ）

高等教育推進センター各部会の活動紹介

授業方法改善部会

授業評価アンケートの活用例の把握と今後に向けての課題

部会長 長谷川 勝久（文学部教育学科）

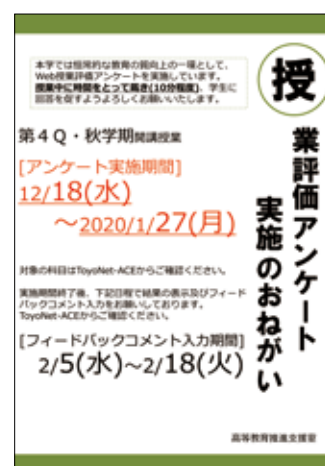
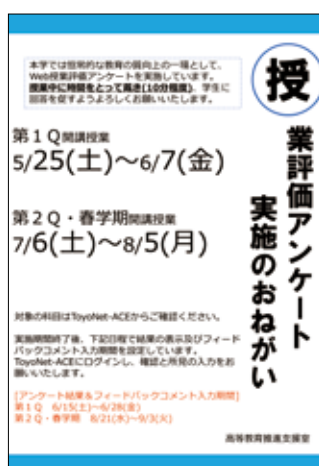
教育方法改善部会では、教育改善に資する取り組みとして、平成25年度より全学を対象とした「授業評価アンケート」を実施しております。今年度も、春学期（7月6日～8月5日）・秋学期（12月18日～1月27日）に実施致しました。

今年度は、授業評価アンケートの活用方法ならびにアンケート項目の見直しについて検討するために、全学の先生方を対象にアンケート調査を実施致しました。その結果、授業評価アンケート活用例につきましては281名、アンケート項目の見直しにつきましては78名の回答が寄せられました。多くの先生方から貴重なご意見を頂くことができました。厚く御礼申し上げます。

授業評価アンケートの活用例につきましては、本誌「高等教育推進センターニュース」にて結果の概要をご報告しておりますので、ぜひご覧ください。授業評価アンケートの項目の見直しにつきましては、現在実施しています授業評価アンケートに関して、開始当初、全学で検討した際に共有されていた分析手法や、読み方についての質問等も多く見受けられました。

今後の取り組みとしましては、現在の授業評価アンケートに

より、どのようなことがわかるのか、どのような目的で作られているのかなど、共通理解をはかると共に、皆様から寄せられましたご意見を反映させた項目の見直しに取り組んでいきたいと考えています。



高等教育研究部会

『ニュースレター』の制作・配信を通して情報や知見を共有

部会長 角谷 昌則（生命科学部生命科学科）

高等教育研究部会は、2018年9月に始まった学内メール配信の『ニュースレター』を柱に活動を行ってきました。初年度に続いて隔週刊とし、2019年度中は計22回の制作・配信を行いましたので、年度末までに通算で36号を送り出したことになりました。

『ニュースレター』紙面の状況ですが、文部科学省を中心とする大学をめぐる行政的な動きについて掲載する「高等教育政策動向等」や、学内教職員にFD・SD活動のチャンスについてお届けする「高等教育推進センターからのお知らせ」といったコーナーは、教職員の皆様への情報提供のルートとして定着をしました。さらに、毎号の巻頭を飾る連載企画については、2019年2月から「シリーズ：わたしが実践する授業の工夫」というタイトルで、さまざまな学部・学科の先生方にご登場いただきました。これは2019年11月に「シリーズ：東洋大学におけるダイバーシティとその対応に向けて」へとバトンタッチし、高等教育研究部会の教職員が分担して記事を執筆しています。

また、「優秀教育活動賞受賞者に訊く」という新コーナーも始まっており、先の「わたしが実践する授業の工夫」終了後も、授業の“秘伝”を披露していただき学内で共有する機会としていきます（ご協力いただいた先生方に御礼申し上げます）。

大学教育の充実に向けてすべきことは一杯あります。高等教育研究部会として常にアンテナを張りながら、今後も『ニュースレター』というメディアを通して情報発信を行っていきたいと考えています。



バックナンバーはこちらから
（学内者のみ閲覧可）

FD・SD研修部会

FD・SD研修会の企画・実施

部会長 藤松 信義（理工学部機械工学科）

FD・SD研修部会は、教育の改善・発展のために取り組んでおり、主に二つの活動を推進しています。

一つは全学的な研修会を企画、開催することです。毎年開催している新任教員FD研修会とTA/S A研修会は、参加者の声を取り入れて継続的に研修内容を改善してきました。研修会参加者が授業に対して懸念する内容は例年共通しています。参加者は事前アンケートと事前課題に取り組むことで課題と問題点を共有します。そのため研修会当日の議論は円滑に進み、参加者の満足度が高い研修会となっています。新任教員とTA/S Aが自信をもって講義できるように支援することは本部会の役割と考えます。

もう一つは各学部・研究科における研修会の支援活動です。研修会が充実したものとなるには、研修内容と講師の選定が重要です。新たな教育形態、学外の実例を踏まえて研修内容と講師を決めますが、委員を担当する教員は必ずしも専門家ではありません。そのため研修会の開催は、高等教育推進支援室の職員からの支援を受けています。

今年度、開催した「授業運営で留意したい改正著作権法」は

大学の講義運営に密接に関わる内容であり、参加者から好評で終わりました。また継続的に開催されている「英語で授業を行うためのFD研修会」は参加者も多く増コースしました。それ以外の研修会開催においても職員の協力を受けており部会を代表して謝意を表します。これからの課題として教育の質保証と学修成果の可視化があります。本部会は他の部会と連携して研修内容を検討し、本学の教育の質向上に務めて参ります。



教育開発・改革部会

教育活動におけるICT活用のさらなる充実にむけて

部会長 高橋 豊美（法学部法律学科）

教育開発・改革部会では、①新たな教育形態（ICT活用等）の研究、②主体的学修（アクティブ・ラーニング）の促進、③学部横断教育プログラムの開発、の3項目について活動しています。今年度は2つのテーマについて講習会を開催しました。

その1つは「教育改革×manaba」をテーマにICTの活用を考えるセミナーです。教育支援システムmanabaを提供する株式会社朝日ネットの主催により学外からも多くの参加者を集めて、本学教職員による講演と事例報告が行われました。講演はオンデマンド型メディア授業の展開、アクティブ・ラーニングと学修時間の確保をテーマとする内容で、講演後にはリアルタイム・アンケートシステムresponを用いた活発な質疑応答がありました。事例報告は、事務職員による各種アンケート、入学前教育、国際化教育等、教員による英語教育、大学院授業、大規模授業、学科運営等について模範的な取組を共有する機会となりました。

もう1つの講習会では、改正著作権法施行を控え、現行法で

認められる著作物利用の範囲と改正後の変更点、manabaで外部著作物を取り込む方法とその効果的な利用のヒントがわかりやすく示されました。これらの解説に続いて、大幅に時間を延長して参加者の具体的な事例に基づく質疑応答がありました。

ICTの利用は着実に増えています。今後は、そのさらなる充実のために、より深く効果的な活用と、ICTによる協働の促進に向けて活動を続けていきます。



2019年度FD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」
配付資料(日・英)・収録動画はToyoNet-ACEからご覧いただけます

高等教育推進センター活動報告（2019年4月～2020年3月）

高等教育推進委員会

- 第1回（第II期通算第1回）2019年4月16日（火）
- 第2回（第II期通算第2回）2019年6月10日（月）
- 第3回（第II期通算第3回）2019年11月13日（水）
- 第4回（第II期通算第4回）2020年3月10日（火）

教育方法改善部会

- 第1回（第II期通算第1回）2019年5月16日（木）
- 第2回（第II期通算第2回）2019年10月29日（火）
- 第3回（第II期通算第3回）2019年11月13日（水）
- 第4回（第II期通算第4回）2020年2月10日（月）

FD・SD研修部会

- 第1回（第II期通算第1回）2019年5月16日（木）
- 第2回（第II期通算第2回）2019年6月17日（月）
- 第3回（第II期通算第3回）2019年10月11日（金）
- 第4回（第II期通算第4回）2019年11月7日（木）
- 第5回（第II期通算第5回）2020年3月2日（月）

高等教育研究部会

- 第1回（第II期通算第1回）2019年5月20日（月）
- 第2回（第II期通算第2回）2019年7月25日（木）
- 第3回（第II期通算第3回）2019年10月24日（木）

教育開発・改革部会

- 第1回（第II期通算第1回）2019年6月9日（日）

学内FD・SD関連研修会

◆ティーチング・アシスタントFD研修会

- 日時 2019年4月13日（土）13：00～15：00
※赤羽台キャンパスは別日に開催
- 場所 各キャンパス

- 対象 2019年度採用のティーチング・アシスタント
（朝霞、川越、板倉キャンパスはスチューデント・アシスタントを含む）
- 参加 187名

◆新任教員FD研修会

- 日時 2019年7月6日（土）13：00～16：00
- 場所 白山キャンパス 5号館3階5305教室
- 対象 2019年度春学期着任教員
- 参加 27名

◆manabaユーザー会 2019年度（後援）

- 日時 2019年11月27日（金）13：15～17：00
- 場所 白山キャンパス 125記念ホール

◆FD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」

- 日時 2020年2月14日（金）14：00～16：00
- 場所 白山キャンパス 125記念ホール
※各キャンパスにWebexビデオ配信
朝霞 第3会議室 川越 第3会議室
板倉 小会議室 赤羽台 事務課奥会議室
- 対象 本学教職員および非常勤講師
- 申込 88名 ※その他、当日参加多数

◆英語で授業を行うためのFD研修会

- 日時 2020年3月9日（月）10：00～17：10
- 場所 白山キャンパス 10号館
- 対象 本学専任教員
- テーマ Program A：講義とプレゼンテーション（導入）
Program B：講義とプレゼンテーション（発展）
Program C：アカデミック・ライティング（導入）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を延期しました。

※活動の詳細は2020年5月刊行予定の「東洋大学FD・SD活動報告書（2019年度）」をご覧ください。

2019年度高等教育推進センター組織図



CENTER
for Promotion of Higher Education
東洋大学 高等教育推進センターニュース

東洋大学高等教育推進センターニュース 第3号

発行：東洋大学高等教育推進センター
発行日：2020年3月18日
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL 03-3945-7253 FAX 03-3945-7238
e-mail：mlfdshien@toyo.jp
URL：http://www.toyo.ac.jp/site/fd/

